

## 金子三勇士君

### 第3回バルトーク国際ピアノコンクール優勝おめでとう！

盛田 常夫

憧れのコチシュからアドヴァイス  
(2008年4月)



この朗報を待っていました。昨年はアテネ、アリツナの国際ジュニアコンクールで優勝し、今度はシニアのコンクールでやってくれると期待していました。テニスの錦織圭と同じ18歳。期待の星です。

両親の住む日本を離れ、6歳でハンガリーに住む母方の祖父母に預けられ、ピアノの勉強に励んできた三勇士君。ハンガリーの年代別のピアノ、民謡、ソルフェージュのコンクールでいつも優勝す

る日本人少年がいると聞き、どんな少年なのか気になっていました。ちょうど糸見偲さんが仲介していた秋田国際子供音楽祭へ誰かを派遣したいという依頼を受け、音楽祭の特別ゲストとして三勇士君を推薦するために、ヴァーツの音楽学校を通して三勇士君を探したのが最初の出会い。丸々太った快活な少年だった。

音楽祭ではピアノソロを披露し、司会のロザンナにも可愛がられてハンガリーに戻ってきました。わが家にピアニストの加藤洋之君と小林亜矢乃さんが遊びに来た折、三勇士君に声をかけました。

祖母のベンツエ夫人はバルトーク・ウワルテットのメズウーさんの妹にあたる。ベンツエさんが三勇士君を連れてきて、わが家の近所のメズウー家で三勇士君の帰りを待つことになった。二人のピアニスト前に、小学生の金子少年は足を組んだまま、「どの作曲家が好きですか」などと逆質問したのに、皆一同、びっくりした。「可愛くないこましゃくれた子供だな」とは思いつつも、厳しい環境の中、すくすくと育っている三勇士少年に大物に育つ予感がありました。

その後、中学生になってリスト音楽院

の特別才能コースへの編入が認められ、週に何回かヴァーツからブダペストに通い、やがてブダペストに居を構えてリスト音楽院での勉強を始めたのです。しかし、2年前に心機一転、日本でのデビューに備え、東京音大付属高校へ転校しました。日本の高校に入って初めて、友人たちに囲まれる生活になりました。何よりも、女子生徒の数が男子の10倍というのがピアノ科ださうです。ヴァレンタインのチョコレートを2日間かけて食べ続けたと話してくれました。

今回の優勝は付属高校首席卒業に花を添えました。4月11日の入学式では新入生総代で入学の辞を述べました。苦手な日本語に少しずつ慣れることでしょう。

優勝を祝って、糸見偲さん宅で小さな集まりを持ちました。サーライ東口美登里さんがピアニストのコチシュ・ツルターンを連れてきて、初めて三勇士君がマエストロと対面することになりました。3歳の時に、コチシュのピアノアルバムを聴き、すぐにその旋律をピアノで真似ようとしたことが、ピアニストになろうと思った最初の瞬間。それから15年、漸く

1999年秋田国際子供音楽祭にて



本人と出会うことができました。ふだんはほとんどコメントしないコチシュが、日本酒の美味に酔い、三勇士君の演奏を「5プラス」と上機嫌で褒めていました。

9年前の金子少年とは内面も外見も随分変わりました。大人になった青年、三勇士君のこれからの活躍を皆で応援したい。